

09. ● 8月12日(金) ニペソツ山(2013m) 風雨激しく途中で撤退

・毎年鹿追から層雲峡へ 273 号線を走っているとき左手に大きく聳えて見えるニペソツ山。北海道きっての鋭鋒で、北海道の山といえばノペソツ山だと地元の人に何回も聞いており、一度は登らなければならない山と思っていた。今まで時間的、体力的に敬遠していたが今年思い切って登る計画を立てた。

・とにかく距離も長いし標高差も大きい。

天気予報では一日晴れると言うので 3 時に目覚ましをかけて起床、糠平の駐車場を 4 時前に飛び出し登山口へ車を走らせた。東の空は星がきれいに見えて晴れているが、ニペソツ山のある西の方は真っ黒な雲が覆っている。どうも良くない予感がする。国道 273 号をぶっ飛ばして約 20km 北上し登山道入口から林道に入る。林道は砂利道だがよく

整備されていて走りやすい。林道の突き当たりがニペソツ山登山口で 4 時半に到着。既に多摩ナンバーの車が一台先着していて男性一人が食事中、どうも昨夜ここに泊まったようだ。雨は降っていないが天気予報に反して真っ黒な雲が覆っている。多摩の男性に「お先に！」と言って 4 時半過ぎに登り始めた。入山届けでは一昨日は 10 人くらい、昨日は 0 そして今日は私が最初だった。

・夜は明けているがまだ 5 時前で雲がかかっているのが薄暗い。沢を渡って登山道に取り付くが最初からの急坂でぐんぐん高度を稼いでゆく。白樺とエゾマツの樹林帯が気持ちよく続き、一時間半くらいで小天狗の岩場に着いた。はじめのうちは時々薄日も差すほどで天気回復が期待されたが、だんだんと雲が厚くなり 2 時間ほど登って小天狗から天狗のコルに着くころにはすっかり雲って霧に小雨が混じってきた。多摩のおじさんが追いついてきてさっさと抜いていった。天狗平の手前のガレ場では吹き飛ばされそうなほどに風雨が強くなり、最悪の状態になった。天気回復は期待できないし、風雨の中登っても意味が無いので、7 時 45 分、標高 2000m 付近で引き返す決断をした。このあたりにはコマクサやウメバチソウなど高山植物が咲いていて、



天気がよければさぞかし気持ちのいいところだろうと思われた。

・さすが北海道の名峰だけあって、この悪天候の中、数人の登山者が山頂を目指して登って行くのとはすれ違った。天気予報では晴れということだったのでそれを信じて来たのだろう。私もその一人だが。

小天狗を過ぎてからの下り道では雲の下に出て、風も収まり時折雨がぱらつく程度になった。西の方は雲も無く晴れていて、クマネシリ岳の峰々がくっきりと聳えて見える。雲に覆われ風雨に荒れているのはニペソツ岳と音更山・石狩岳のこの周辺だけらしい。後で、この付近に突然前線が発生し天気が急変したことが分かった。



西の方は雲も無く晴れていて、クマネシリ岳の峰々がくっきりと聳えて見える。

・10時半に登山口に無事到着。車がいっぱい止まっている。かなり入山しているようだ。ニペソツ山方面はまだ真っ黒な雲の中だが、ここ登山口は雲がどんどん流れていて時折日が差したり、雨がぱらついたり激しい天気だ。

・今日の宿・民宿「グリーンぬかびら」に向けて今朝来た道に戻った。途中の道路沿いの駐車場に止めて昼食をとっていたら、次々と車が入ってきて、みんな裏の方へ歩いてゆく。何かと思ってついていったら、綺麗な白樺の小道が道路沿いに延々とつづいていた。どうも名所になっているらしい。



白樺の小道が道路沿いに

・さらに川の向こう岸には、普通っていた鉄道の石造りの橋梁が残っていて、糠平へゆくまでの数カ所に「橋梁展望台」がある。この橋梁は糠平湖の水位が上がると水の中に消え、水位が下がると出てきたりするという。



タウシュベツ川橋梁

・いろいろ寄り道をしながら1時半に今夜の宿「グリーンぬかびら」に着いた。ニペソツ山の山頂付近はまだ真っ黒な雲に覆われているが、麓の糠平では真夏の太陽が照り付けていた。

・早く着きすぎたようだが、太ったご主人が部屋を用意してくれたので、久しぶりで畳の上に落ち着いた。洗濯機で衣類の洗濯をし、水道で今日までの汚れた車を洗い、半日を有効に使った。強烈な夏の日差しに洗濯物もすぐに乾いた。食堂でご主人とおばさんと雑談をしながら、高校野球をテレビで観戦。ちょうど横浜／高崎の試合だったが、横浜が勝利！ おばさんは高崎を応援していたのでがっかりしていた。



民宿「グリーンぬかびら」

3時半に風呂へ入り（ここは糠平温泉だから当然温泉）5時半から夕食。その間パソコンで写真の整理をしたり、日記を書いたりしてゆっくり過ごした。

夕食は民宿だからたいした料理はないが、おでんにカレーの煮付け、メンチカツなど多彩。酒類は宿にはなく客に自分で用意させるのもユニークだ。今日の宿泊は滞在客が2人、それに私と福島ナンバーのバイクに乗ってきた若いカップルの5人。宿のご主人とおばさんも一緒に夕食を食べた。気さくな宿だ。

・明日は天気良さそうなので、再度ニペソツ山に行こうか、計画通りウペペサンケ山に登ろうかと迷ったが、ウペペサンケ山に決めた。おばさんが4時に朝食を準備してくれるという。明日の山を期待して、この旅に来て初めて、畳の上で・布団の上でゆっくりと寝た。